



KH（炭酸塩硬度）－ 錦鯉の池でpHを支えている値

h2koi.com · 2026-08-04

要点

- KHとGHは別物です。pHを支えているのはKH（炭酸塩硬度）で、GH（総硬度）に緩衝の働きはありません。
- 錦鯉に適したKHは約110～180 mg/L（6～10 °dKH）。約90 mg/L（5 °dKH）を下回ると、24時間のうちにpHが不安定になります。
- 上げるときは重曹。水1トン（1,000 L）あたり約30 gでKHが約1 °dKH（約18 mg/L）上がります。長期的には牡蠣殻やサンゴ砂をろ過槽に入れておく方法が確実です。
- KHは音もなく減っていきます。pHは最後まで平然としていて、緩衝能が尽きた夜に一気に落ちます。

比較する点	KH（炭酸塩硬度）	GH（総硬度）
何を測っているか	炭酸水素イオンと炭酸イオン	カルシウムとマグネシウム
役割	酸を受け止める緩衝能	水中のミネラル量の目安
pHに影響するか	する。pHが安定するかはKHで決まる	しない。GHが高くてもpHは安定しない
低すぎるとどうなるか	pHが不安定になり、一晩で落ちることがある	ミネラル不足にはなるが、pHの急変とは結びつかない

使うのは**重曹**です。ベーキングパウダーは使えません。ベーキングパウダーは重曹に酸性剤や固結防止剤を加えた膨張剤で、池に入れてよいものではありません。

粉のまま撒かないでください。必ず池水に溶かしてから入れます。

1日に上げるのは最大でも1～2 °dKH（約18～36 mg/L）まで。段階ごとに再測定してから次に進みます。急に戻すこと自体が魚への負担になります。

H2KoiがKHをどう扱っているか。 H2KoiはKHを連続的に算出した値として、0～20 dKHの範囲で表示します。滴定ではなく演算値です。産業用グレードのセンサーが読んだ実測値をもとに、値が動き出したことを早い段階で知らせる継続的な早期警戒です。なおH2KoiはGHを測定・表示しません。GHは監視項目に含まれていません。